



セネガル国月報

2014年5月

在セネガル日本国大使館



主な出来事

内政

- 8日、ジガンシオール州ビニョナ県シンジャン郡でMFDCと思われる武装集団とセネガル軍の間で30分にわたる銃撃戦が発生し、兵士1名が負傷、武装集団のメンバー1名が死亡した。
- 21日から22日にかけて、シェーク・アンタ・ジョップ大学で学生が奨学金の不払いへの抗議及び「Master pour tous(全ての人に修士課程へのアクセスを)」を求めるデモを起こし、治安部隊と衝突した。
- 22日、野党PDS運営委員会において、ワッド前大統領は「悪魔と手を組んでもAPRを打倒しなければならぬ」と発言し、地方選挙においてほぼ完全な勝利を収める意思を述べるとともに、国内の全県を訪問する予定を明らかにした。また汚職の疑いで拘留されているカリム・ワッド元大臣らの問題に関しては、「地方選挙後に指示を発表する」と述べた。

外政

- 11日、ルドリアン仏国防相がセネガルを訪問し、ティン国防相とダカールにおける仏軍共同作戦拠点の設置に関して協議を行った。
- 15日、サル大統領は政府関係者及び宗教関係者とともにサウジアラビアを訪問し、同日から19日にかけてジッダ、メッカ及びメディナで巡礼を行った。

経済

- 24日、サル大統領、トゥーレ首相らはジャムニャジョ都市圏建設工事の着工式に出席した。
- 2013年のDoing Businessにおけるセネガルの順位が189か国中178位であったことに関し、トゥーレ首相は順位向上のための21項目からなるアクションプランが現在95%達成済みである旨明らかにした。

内政

1 地方選挙

- 8日、国家独立選挙委員会(CENA)は総会を開催し、トゥーバ・モスケ市の候補者リストについて、選挙法で定められている候補者リストにおける男女同数の原則の遵守を求めるとともに、是正がされない場合はリストを受理しない可能性を明らかにした(当館注:トゥーバにおいては、選挙の際、慣習的にムリッド教団総カリフの監督のもとに単一の候補者リストが超党派で作成される。通常、候補は男性のみ)(9日 Quotidien)。
- 11日、CENAの代表がトゥーバを訪問したが、同教団総カリフはリストを修正しない旨宣言した(12日 Quotidien)。
- 13日、ジャロ内務相はトゥーバ・モスケ市の候補者リストは受理可能である旨宣言した(14日 Observateur)。

2 野党PDS及びワッド前大統領の動向

- 2日、ワッド前大統領はダカール市内 Camp penal 刑務所を訪問し、ワッド政権下において汚職に関与した疑いで収監されているアイダ・ンジョング元上院議員と約30分間面会した。周辺には大勢の支持者が集まり、警察が催涙弾を使用する事態となった。また、同日に予定されていたルブス刑務所でのカリム・ワッド元大臣との面会は行われなかった(3日 Walfadjri, Leral.net)。
- 22日、野党PDSの運営委員会が開催された。出席したワッド前大統領は「悪魔と手を組んでもAPRを打倒しなければならない」と発言し、地方選挙においてほぼ完全な勝利を収める意思を述べるとともに、国内の全県を訪問する予定を明らかにした。また汚職の疑いで拘留されているカリム・ワッド元大臣らの問題に関しては、「地方選挙後に指示を発表する」と述べた(23日 Observateur)。

3 Synchronix 社世論調査 (17・18日 Observateur)

- 民間の調査会社 Synchronix が5月1日から6日にかけて、ダカール、ンブール、チェス、カオラック、サンレイ、ジュルベルで18歳以上の市民900人を対象に実施した世論調査において、「もし明日大統領選挙が実施されるとしたら、誰に投票するか」という質問に対し、32.6%がサル現大統領、18.9%がカリム・ワッド元大臣、28.8%が分からないと回答した。
- 同じくカリム・ワッド元大臣の処遇に関しては、41%が同大臣は釈放されるべき、59%が裁判を受けるべきであると回答した。

4 前政権の不正追及

- カリム・ワッド元大臣の裁判は7月31日に開始される予定(27日 Dakaractu)。

5 カザマンス紛争

- 4月28日にカザマンス民主勢力運動(MFDC)のサリフ・サジョが戦闘員に対して停戦(cesse-le-feu unilatéral)を命じたことに対し、他派閥から一方的かつ単独行動主義的であると非難する内容のコミニケが発表された(12日 Quotidien)。
- 8日、ジガンシヨール州ビニョナ県シンジャン郡でMFDCと思われる武装集団とセネガル軍の間で30分にわたる銃撃戦が発生し、兵士1名が負傷、武装集団のメンバー1名が死亡した(14日 Setal.net)。

6 シェーク・アンタ・ジョップ大学における騒乱

- 21日から22日にかけて、シェーク・アンタ・ジョップ大学で学生が奨学金の不払いへの抗議及び「Master pour tous(全ての人に修士課程へのアクセスを)」を求めるデモを起こし、治安部隊と衝突した(22日、23日 Quotidien)。
- 28日、ダカール裁判所軽犯罪現行犯法廷は、21日に逮捕された学生22人に対し、釈放を言い渡した(29日 Dakaractu)。

7 薬物不正取引抑制局(OCRTIS)所属の警察官による薬物取引

- OCRTIS 所属の警察官イブライマ・ジェンがコカインの売買を行った疑いで逮捕された件に関し、13日、ンドゥール同局長はOCRTISの組織的な関与を否定した(当館注: 同人は自身が摘発した薬物の所持者を逮捕しないことと引き替えにこれを没収し、ナイジェリア人の密売人に転売する行為を繰り返していた)(14日

Quotidien)。

外政

1 EU・セネガル漁業協定

- 環境団体グリーンピースが4月30日に発表したコミュニケ(政府がEUと締結した漁業協定(5年間で1,393万ユーロの資金協力と引き替えに, 38隻のヨーロッパ船がセネガル領海で年間1万4,000トンのマグロを漁獲できる)の再検討を求めるもの)に関し, 2日, アイダール漁業大臣は, 2006年にEUとの間に締結された秘密協定(ヨーロッパ漁船がセネガル領海内で年間1万5,000トンのマグロを無償で漁獲できる)に触れ, 「これまでの異常な状況を正したに過ぎない」と述べた(3日 APS)。

2 エボラ出血熱の流行に伴う国境閉鎖の解除

- 6日, セネガル政府はギニアにおけるエボラ出血熱の流行に伴う同国との国境閉鎖を解除した(6日 Soleil)。

3 サル大統領のアフリカに関する世界経済フォーラム出席

- 8日から9日にかけて, サル大統領はアブジャ(ナイジェリア)で開催されたアフリカに関する世界経済フォーラムに出席し, NEPAD 議長としてインフラ整備に関するハイレベル会合に出席した(9日 Soleil)。

4 仏・中国との軍事協力

- 11日, ルドリアン仏国防相がコートジボワール, モーリタニアに続いてセネガルを訪問し, テイン国防相及びサル大統領と会談を行った。テイン国防相との会談においては, 仏軍がアビジャン(コートジボワール)及びジブチに作戦基地を, またダカール及びリーブルビル(ガボン)に共同作戦拠点を設置する旨協議された(12日 Soleil)。
- 14日, 中国海軍の第16護衛艦隊が国連のソマリア沖・アデン湾ミッションに参加した帰路, 親善訪問のためダカールに寄港した。同艦隊は親善訪問及び軍事協力のためチュニジアを訪問しており, 今後コートジボワール, カメルーン, アンゴラ, ナミビア, 南アフリカ共和国を訪問する予定(15日 Soleil)。

5 ナイジェリアにおける女子生徒拉致事件への反応

- 12日, 在ダカール・ナイジェリア大使館周辺で, 約20の女性団体が同国におけるボコ・ハラムによる女子生徒の誘拐事件に抗議するデモを行い, 一部ではボコ・ハラムを非難するとともにナイジェリア政府及び国際社会の迅速な対応を求める目的での投石に発展した(12日 APS)。
- 16日, 国連改革に関するC10首脳会合に出席するためコンゴ共和国を訪問中のンジャイ外相は, ボコ・ハラムによる女子生徒の誘拐を強く非難するとともに, 「アフリカは即座に行動を起こし, テロ組織であるボコ・ハラムに立ち向かわなくてはならない」と述べた(17・18日 Soleil)。

6 サル大統領のサウジアラビア訪問

- 15日, サル大統領は政府関係者及び宗教関係者とともにサウジアラビアに到着し, 同日から19日にかけてジッダ, メッカ及びメディナで巡礼を行った。18日, 同大統領はメッカでイスラム開発銀行総裁と会談した(17・18日, 19日, 20日 Soleil)。

- 19日、ンジャイ外相は、モロッコでサウジアラビア人実業家を相手に詐欺事件を起こして逮捕され、サウジアラビアで収監中かつ死刑が危惧されているアルカリ・シセ元国民議会議員に関し、本件は慎重に取り扱われており、セネガル政府はすでにサウジアラビア政府と連絡を取り合っている旨、また同国を訪問中のサル大統領が本件についても取り上げる予定である旨述べた(20日 Soleil)。

7 トルコ大使館建設問題

- 4日、サル大統領は、トルコ大使館の建設を含むコルニッシュ通り沿いの無秩序な開発によって市民の海岸へのアクセスや眺望が遮断されていることへの反対運動を受けて、当該地区の視察を行った。同大統領は、沿岸の再開発のため、市民と政府による作業グループ立ち上げ、建築コンペティションなどを行う考えを述べるとともに、政府がトルコに対して大使館の建設中止を要請している旨明らかにした(5日 Observateur)。
- 26日、ンジャイ外相と会談を行ったアルガン駐セネガル・トルコ大使は、大使館建設の場所を変更する旨発表した(26日 APS)。

8 国連薬物犯罪事務所(UNODC)西部・中部アフリカ資産申告会議

- 26日から28日にかけて、UNODCがダカールで西部・中部アフリカ資産申告会議を開催し、サル大統領、ンゴム国家不正・汚職防止局(OFNAC)局長らが出席した。ンゴム局長は6月末までに首相、大臣などの資産公開を実施する旨明らかにした(27日 Quotidien)。

9 ヴァス・ギニアビサウ大統領候補のセネガル訪問

- 27日、ギニアビサウ大統領選挙で当選したヴァス候補がサル大統領を訪問し、二国間協力について協議した。同候補は今後ECOWAS加盟諸国を訪問する予定(28日 APS)。

10 サル大統領のECOWAS臨時首脳会合出席

- 30日、サル大統領はアクラ(ガーナ)で開催されたECOWAS臨時首脳会合に出席し、主にマリ及びナイジェリアのテロリストに関する議論に参加した(31・1日 Soleil)。

経済

1 物価

- 国家人口統計局(ANSD)の発表によると、2014年第1四半期の消費者物価は2013年第4四半期と比較して2.6%下落した(12日 APS)。
- 20日、14日に閣議決定されたパンの値下げ(190グラムのバゲット1本が175Fcfafa⇒150Fcfafa)がダカール州内で実施された。同措置は約1週間中に全国で実施される(20日 Soleil)。
- 27日の特別閣議において、バ経済・財政大臣は、2014年第1四半期の経済成長率が2013年の同時期の2.1%から3.2%に上昇した旨明らかにした。また2014年第1四半期の歳入は、2013年の同時期に比べて低下が予想されていたところ、4,170億Fcfafaから4,490億Fcfafaに上昇した(27・28日 Populaire)。

2 セネガル新興計画(PSE)関連

- バ経済・財政大臣は、パリ支援国会合(CG会合)の際に支援が表明された約3兆7,290億Fcfafaのうち、現

時点では 14.4%(5,363 億 Fcfa)が拠出されている旨明らかにした(19 日 Quotidien)。

- 24 日, サル大統領, トゥーレ首相, シィ APIX 総裁らはジャムニャジョ都市圏建設工事の着工式に出席した。同都市圏(1,946 ヘクタール)には住宅 4 万戸, 5 つ星ホテル 10 軒, ダカール第 2 大学, 商業施設, 文化施設, スタジアム等が建設され, 30 万人の居住が見込まれている(26 日 Soleil)。

3 ビジネス環境

- 2013 年の Doing Business におけるセネガルの順位が 189 か国中 178 位であったことに関し, トゥーレ首相は順位向上のための 21 項目からなるアクションプランが現在 95%達成済みである旨明らかにした(31・1 日 Walfadjri)。

4 電力政策及び経済協力

- 6 日, ダカールでオランダ企業 Solar Plaza 主催の太陽光発電に関する域内会合が開催された。ニャン・エネルギー省エネルギー部長は, チェス州ンブール県ジャス(ブレイズ・ジャーニュー新空港近く)にドイツの支援で 10 メガワットの太陽光発電所が建設される旨, またアラブ首長国連邦の支援で 15 メガワットの発電所が建設される旨明らかにした(7 日 Sud Quotidien)。
- 14 日, バ経済・財政大臣とシディベ・イスラム開発銀行オペレーション担当副総裁は, セネガル・モーリタニア間における 225 キロワットの送電計画(394 億 Fcfa)及びクヌーパドワーンブールーカオラック間の送電計画(433 億 Fcfa)の融資契約に署名を行った(15 日 Soleil)。
- 21 日, セック・エネルギー大臣は, 2016 年までの電化率 60%の達成を目標として, 1,000 億 Fcfa を投じた緊急農村電化プログラムを実施中である旨明らかにした。同プログラムにおいては, 各県が最低 30%の電化率を達成することが求められている(23 日 Sud Quotidien)。
- 世銀はバンダ計画(モーリタニア沿岸のガス田を利用し, 同国及びセネガル, マリ向けに 300 メガワットの発電を行うもの。140 万家庭, 700 万人への裨益効果が期待される)実施のために 2 億 6,100 万ドルを拠出することに合意した(30 日 Soleil)。

5 経済協力(その他)

- 8 日, ギエール湖管理局(OLAG)はギエール湖環境・経済機能回復計画の実施を発表した。同計画は 2014 年から 18 年にかけて, 農業・漁業及び畜産分野の生産向上及び生態系の保全を目的に実施される。総費用 139 億 5,000 万 Fcfa のうち 112 億 Fcfa はアフリカ開発銀行の貸し付け, 6 億 3,900 万 Fcfa は地球環境ファシリティ(FEM)の無償資金協力, 21 億 1,100Fcfa はセネガル政府の支出によるもの(9 日 Sud Quotidien)。
- 27 日, インバイ文化相は, インド企業 Marwah Studio がダカールに撮影スタジオ, 映画館, 映画・マルチメディア研修センター等からなる「映画都市」を建設する旨明らかにした(28 日 APS)。
- 28 日, バ経済財政大臣とアドヴェランド西アフリカ開発銀行総裁は, 国道 7 号線のジャラコトーマコ間(タンバクンダーケドゥグ間に位置する)改修のための 100 億 Fcfa の借款契約に署名した。同計画はイスラム開発銀行及びセネガル政府との共同計画(30 日 Soleil)。

(注)「セネガル月報」は, セネガルの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は, 日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが, 当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。

(了)